四季折々の花

令和２年　師走

社会福祉法人はなゆめ
NPO法人三鷹はなの会
理事長　松 﨑　伸 一

No.01

コロナウイルスに慣れないで！

夢と希望をもって「ウィズコロナ」の時代を超えていきましょう。

令和２年もあと何日かと数えるほどとなりました。振り返ると新型コロナウイルスとの戦いに明け暮れた今年、街は、いや世界が未だ新型コロナのパンデミックの中で苦しんでいます。１年前、誰がこんな世界になることを予測できたでしょうか。

日本では11月後半から感染拡大の第３波が到来し、毎日のように感染記録を更新し、ついに東京では１日のコロナ感染者が８００人を超える事態。政府はGOTOキャンペーンを一時中止、日本医師会は医療体制の緊急事態宣言を出しています。

このコロナ感染は障がい福祉事業には大変な影響を与えています。そもそも濃厚な接触があることを前提に日々がある福祉事業。「三密」を防ぐ、「ソーシャルディスタンス」を保つということが福祉の現場でどういうことなのか、考えさせられてきました。進める予定のイベントや芸術文化活動も中止せざるを得ませんでした。

さらに感染に対する認識は人によって大きく異なります。どの程度が適切か難しい判断です。しかし、福祉事業でとにもかくにもしなければいけないことは、事業所での感染拡大を防ぐことです。私たちは作業所時代からの親しい法人と法人協議会を作っていますが、すでにその多くの施設でクラスターも発生、感染した利用者、家族、職員が大きなダメージを受けています。コロナウイルスに慣れるのではなく、戦うための「新しい生活様式」が求められています。

あらためて、社福はなゆめ、ＮＰＯ三鷹はなの会の利用者、家族、職員の皆さんに訴えます。「コロナウイルスに慣れないでください！」今は気を緩めてはいけない時です。その先に夢と希望があることを確信しています。ご協力ください。

〇社福はなゆめ、ＮＰＯ三鷹はなの会　の連携強化

私たちはな・はなグループは、かつて「民営授産」と呼ばれ東京都の補助金制度で運営されていた作業所でしたが、15 年前の新法で新しい障害福祉サービス事業に位置付けられ、公的責任を持つ団体となりました。最初の作業所が誕生してからは 37 年目、NPO 法人三鷹はなの会は 15 年目。社会福祉法人はなゆめは９年目となります。この 15 年で地域で共生社会が築かれる環境が整ってきたように見えます。しかし「津久井やまゆり園事件」にみられるように、障害者への差別と偏見が社会からなくなるのは簡単なことではありません。どんなに障害が重くても、普通に、当たり前に暮らす共生社会は、まだまだ日々の奮闘の先あるようです。私たちの事業はその前線に立っています。多くの皆さんの協力が必要です。

幸いにも私たちは、社会福祉法人はなゆめ、NPO 法人三鷹はなの会と、かつての作業所を基盤とした２つの法人で役割分担をしながら運営を行っています。今後はより連携を強めて三鷹市における障害福祉を担っていく必要があると思っています。

〇情報提供　令和 3 年度の報酬改定に向けた動き

来年度、令和 3 年度は障害福祉サービスの報酬改定が行われる年となります。今、厚労省の社会保障審議会が何回も開かれて、障害福祉サービス全般にわたり問題提起と審議が行われています。詳しくは厚労省のホームページをご覧いただきたいと思います。

これには、全国手をつなぐ育成会連合会も審議会の都度に意見提起をしているところです。なかでも就労継続支援Ｂ型の在り方について変化が起きそうな議論が始まっています。かいつまんでお話ししますと。

- 就労継続支援Ｂ型の基本報酬は、前の改定において「平均工賃月額」に応じたメリハリのある報酬体系とした。報酬区分が「５千円以上１万円未満」「１万円以上２万円未満」に位置する事業所が全体の７割以上（利用者数も約７割）を占めている。直近（平成 30 年度）における工賃月額の平均値は 1 万 6,118 円であり、中央値は 1 万 3,086 円。
- 65 歳以上の利用者も年々増加しており、障害特性に加え、高齢化にも対応しつつ、地域の実情に応じ利用者の就労支援ニーズに応えている現状にある。
- このように、**「平均工賃月額」だけでは利用者の多様な就労支援ニーズや事業所の支援の実態を十分に反映することが難しい**側面も存在している。
- 多様な就労支援ニーズへの対応については、現報酬体系とは別の報酬体系について検討してみてはどうか。**利用者の生産活動等への参加等を支援したこと**をもって一律の評価をする報酬体系を新たに創設するなど、報酬体系の類型化を検討してみてはどうか。

わかりにくい国の表現ですが、工賃をいくら出したかの評価では、利用者の多様性が反映できない。工賃を稼いだかどうかではない、多様な活動への参加で評価する方向がないか検討されています。私たちのＢ型事業にも影響する可能性があります。以後注目です。

〇四季折々の花　について

新型コロナウイルス感染の今年、従来法人で行っていたイベントや家族会、三鷹市絡みの催しもほとんどが中止となってしまいました。致し方ない事態ですが、世の中は動いています。理事長として利用者、家族、職員に伝えたいことはたくさんあります。そこでこのコラム「四季折々の花」を独立させ、皆さんにお伝えしていくことにいたします。

私自身、三鷹の親の会の作業所作りに飛び込んで 30 年、制度や環境も大きく変わり、求められるものも変わってきました。原点を考えれば、障害を持った人たちが集まれる居場所、地域生活の支援拠点が作業所でした。みんなが笑顔で集まる場所。それはこれからも求められるものです。最近想定外の大病をしてしまい 2 週間ほどの入院となりました。健康が一番です。コロナに負けず、皆さんと共に前に進んでいきたいと思います。

理事長　松﨑 伸一